

令和 6 年度学校関係者評価協議会報告書

学校法人東洋学園
東洋学園高等専修学校

東洋学園高等専修学校は、下記日時に『学校関係者評価協議会』を開催いたしました。協議会では、協議・意見交流を行ない以下の意見と評価がありました事を報告いたします。今後は、この意見等を受け止め改善に努めてまいります。

1. 名 称 東洋学園高等専修学校 学校関係者評価協議会
2. 目 的
 - ・ 学校教育自己診断アンケート調査結果の客観性・透明性を高める。
 - ・ 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たる。
3. 日 時 令和 7 年 10 月 6 日（月）18：00～19：00
4. 場 所 東洋学園高等専修学校 102 教室
5. 委 員 一 覧

	所 属	役 職 等
1	大阪市立小学校	校 長
2	大阪市立中学校	校 長
3	長尾谷高等学校	教 頭
4	関西福祉科学大学	准 教 授
5	大阪国際大学	入試・広報部 課 長
6	森小路 京かい道商店会	会 長
7	株式会社 アワヤ	取 締 役
8	東洋学園同窓会	会 長

6. 議 案

1. 報告・協議

- ① 学校概要について （生徒就学状況等）
- ② 生徒指導・教務・進路指導 各部より報告
- ③ 令和 6 年度学校教育自己診断アンケート結果報告
- ④ 意見交流

7. 議 事

1. 報告・協議

- ① 教頭から本校教育活動概要、各学年在籍者数の報告。1 年 70 名、2 年 48 名、3 年 44 名、全学年 162 名 男子生徒 63 名、女子生徒 99 名。1 年生入学者数が前年度比 19 名の増加となった。

- ② 生徒指導部長から、令和 6 年度生徒指導規定による処分件数と内容について報告。地域と連携した行事の取り組みについて報告。生徒の傾向と状況説明では、家庭環境、外国籍生徒の状況報告。地域清掃活動を月 2 回ほど実施。継続実施をしたことにより、大阪市旭区長より感謝状を授与された。

教務部長から、生徒のコース選択状況などを報告。また、不登校・長期欠席生徒への支援の取組と概要を説明。教員の授業力向上の為、授業力向上委員会の設置とその目的、取り組み内容を報告。

進路指導部長から、令和 6 年度の進路報告と今年度の進学・就職共に試験がスタートした旨と、令和 6 年度卒業生の進学先・就職先の報告。令和 6 年度中の合計求人企業数と求人数、進路指導部としての年間計画と各学年における設定目標などを報告。

- ③ 令和 6 年度学校教育自己診断アンケート分析結果報告（教頭）

＜生徒アンケートより＞

授業については 8 割程度の生徒が肯定的な意見を示している。昨年度アンケートでは、3 割程度の生徒が学ぶ環境として否定的な意見を出していたが、今回は 2 割強程度で収まっており、若干の改善が見られた。しかし、決定的な改善ではなかったため引き続き教員間で意識を持ち改善に努めたい。

項目 9 のプライバシーに関する否定的な意見が、3 年生で 4 割強となっており早急な改善が必要である。この事実を重く受け止め、各教員の言動についても指導を強化する。

進路については昨年に引き続き、9 割が肯定的な回答をしている。今年度も高卒求人の倍率は高く、様々な職種で人員を募集していることもあり比較的就職も決

まりやすい。進学についても 18 歳年齢人口の減少による傾向も手伝って、希望の学校へと決まるケースが多い。

学校生活全般において生徒からは肯定的評価が多くを占めているが、令和 6 年度のアンケート結果を危惧した部分と、令和 7 年度に入学した生徒の実態も把握する目的で、1 学期末に学校評価アンケート（全生徒対象）・入学生実態アンケート（1 年生対象）を実施した。その結果、学校評価（生徒）アンケートにおいて項目 9 のプライバシーに関する評価が改善していることが確認できた。これに安心することなく、今後も生徒にとって最適な教育活動を進めていく。

入学生の実態アンケートからは、新しい学校生活を迎えるにあたり、生徒たちは勉強面や、友人関係がうまく作れるかといった部分で不安に感じていたことが分かった。入学後にそれらの不安は 8 割程度の生徒が解消できたと回答していることから、生徒が安心して通える環境がある程度は整備できているかと感じている。また、生徒たちが入学の決め手として考えていることは「学びたいことが学べる」・「中学校の先生からのアドバイス」が多くを占めており、中学校や地域の皆様からも安心して進学を勧めてもらえる学校であり続けるための努力を継続していく。

<保護者アンケートより>

質問項目のほとんどで 80%～90%程度の肯定的回答である。また、D 評価のみに着目しても、全項目 1 割未満となっており、及第点であると考え。一方で、学年による差もあり、全体的に 2 年生保護者による否定的 C・D 評価の割合が高い点は注目し、改善を図るよう教員一丸となって取り組んでいく。令和 7 年度より、google classroom を用いた保護者向けの配信を開始した。移行期間であるために紙媒体でのお知らせも併用しつつ、タイムリーな「学校→保護者」の連絡を実現していく。

昨年度から、就職に関する求人情報はデータベースに登録し、それをそれぞれがスマートフォンを通じて閲覧できるようにした。生徒・保護者にとっても自宅でも様々な情報を閲覧することが可能になったことで、以前よりも就職関連情報を入手しやすくなったために、兄弟姉妹で本校に通っている生徒の保護者からは便利になったとの声をいただいている。

<教員アンケートより>

学校の取り組みに対しての評価はおおむね肯定的であるが、昨年に引き続き、教員研修に対する評価が低い。教育実践に役立つ内容での研修の実施を考える。

④ 意見交流（まとめ）

- 生徒アンケートのプライバシーに関する項目については、ある程度は仕方がない部分あると感じる部分がある。関係性にもよるものもあり、感じ方・受け取り方にとらわれすぎると向き合えなくなる。
- 評価が前年度に比べて高く改善されている。生徒アンケート項目 7 の「先生に相談や質問がしやすい」の評価が各学年で 2 割～2 割強否定的回答であることに着目し、改善する余地があるのではないかな。
- アンケート結果の概要を分析しており見やすくなった。生徒アンケートのプライバシーに関する項目は、単に数字が悪いだけで片付けるのはもったいないと感じる。生徒自身がどういった部分を指し、ひっかかっているのかを検証していく必要を感じる。また、経年でのデータの推移を用意すると見えてくるものがある。
- 不登校経験者の改善が素晴らしいと感じる。人権などの項目で 2 年生の否定的評価が多いのが気になる。また、生徒の質問項目と、保護者の質問項目をリンクさせるとより有用なデータが取れる。全体的には生徒・保護者が満足していることが読み取れる。
- 生徒アンケートのプライバシーに関する項目には過剰反応もあるのではないかと感じる。数字にとらわれすぎずにより良い関係の構築を目指してはどうか。また、生徒の様子を見かけることがあるが、笑顔が多く楽しそうにしている姿をよく見る。
- 経年変化の数値を出してもらえると分かりやすい。昨年度のアンケート結果からは教職員間のコミュニケーションが取れていないように読み取れたが、今回は改善している。
- 経年変化の資料は全体に必要なものである。9 割方肯定的な回答であるため生徒・保護者も学校の方針を理解しているように感じる。生徒アンケート項目 7 の「先生に相談や質問がしやすい」の D 評価が多い部分が多いことは、生徒の意見を集約することにつながり、生徒の声が届きにくい状況になってはいないかを検証する必要がある。

8. 校長より

本日いただいた貴重なご意見は次年度以降に反映し、よりよい教育活動の推進に努めてまいります。「高等学校」にはない自由度が「高等専修学校」にはあり、そうした強みを生かして教育活動を続けてまいります。

そして、生徒・保護者・地域の皆さまから理解され応援していただける学園づくりに努めてまいります。